世の法則となり何人にても此の法則に戻り妓を貯へ妾を弄そるものは
宵に世人の嘲笑を買ふ而已ならず殆んど社會に齒せらるゝに到
らんは洵に喜ぶべき現象なり
要之に女子の婦德を高めんとすれば亦男子の私德をも正さゞるべから
ず何となれば落花流水の情は獨り罪を女子に歸そべからずして男子も
亦大に其責に任ずべければなり、然れども今茲に余輩の論究せんとす
る所は重に女子の行爲にして男子に關するとは問題外なるを以て之を
他日に期そべし兎にも角にも我國婦女子が政略上より家政上より機械
的奴隸の境界に彷徨ひしは洵に憐むべき事實なりしも今は過ぎし昨日
の夢となり男女同權と迄には行かざるも才操の美品格の優は夫妻相携
へて國家の料理に一大必要を感ずるに到りしは決して疑ふべからざる
事實なり然り而して此男尊女卑の迷夢を打破して尊ぶべき曙光を我姉

妹の上に浴せかけたるは實に歐洲文明の賜なりと謂はざるべからず然
れども是れと同時に亦我女學界の風儀を亂したるものも文明に伴ふ一
種の弊害なると認めざるべからず何を以て之と謂ふ觀よ今より廿七八
年前帝國大學々生と高等女學校生徒とをして舞踏會を開かんとしたる
が如き或は男女交際の爲め會話舞踏音樂等の會を興したるが如きは
婦人乘馬短銃練習會と興さんとしたるが如き若くは婦人束髮會を興し
たるが如き何れも其極端に走て歐風心醉したるの結果ならずんばあら
ず知らずや是れ他日鹿鳴館に於ける淑女の醜聞となり或は高等女學校
に對する不良の風說となりしは實に其禍源茲に胚胎したるものなると
且亦余輩が曾て高知城南千島郡に當時女子中學校教師として美男の噂
高かりし藤村農學士と寓と同したるとありき然るに中學の女生徒等は
日々用もなきに氏の許に來りて大に迷惑を極めたりき當時若し氏とし

て微塵だも不良の行爲あらしめざるや疑なし而して彼等學生は何の爲めに來りしや。溫習の爲め乎勉學の爲め乎將質問の爲め乎溫習勉學質問毫も余輩の問ふ處に非らず然れども如何せん彼等の來りしは溫習の爲め勉學の爲めに非らず質問の爲めに非らずして只だ遊ばんが爲めの男振を觀んが爲め而已、嗚呼彼等の理想何ぞ夫れ如斯卑近なりや、後ち藤村氏去り多田女敎辭し校內空氣稍一新するに到りしが如しと云へども尙未だ雪中一輪の梅花女學界の寒風に泣かんとしたるは抑如何畢竟するに是皆歐洲皮想の文明に心醉し其弊害の宿る所と察せずして切に岐路に走りし罪に基せずんばあらず當時余輩は書窓の下にありて窃に痛嘆の至に堪へざりしが今や星移り物變りて已に幾春秋を閱しぬ彼等の中には最早人の妻たり母たるものあらん知らず卿等既往に顧て

今昔感なきや否借問す如今高知女學界の氣風果して如何ぞや

夫れ善良なる國民を養成せんと欲せば淸健高潔なる家庭と興さゞる可らず淸健高潔なる家庭を興さんと欲せば貞淑なる婦人と作らざるべからず貞淑なる婦人を作らんと欲すれば敎育を充分に施し其良智良能と開發せざるべからず良智良能を開發して始て婦人の德操高まり婦人の德操高まりて家庭和樂し家庭和樂して始て善良なる國民を養成そるを得べし故に德操の有無は一國の消長に重大の關係と有そるものと知るべし語を換もれば家庭は一國の土臺にして婦人は未來帝國の國母たればなり。是れ卽ち目下女子敎育の急務なると同時に亦婦人自身に於ても必ず自已の德操を高むることに注意せざるべからず勿論學校敎育の下に嚴肅なる感化を受くるは德性涵養の點に於て著しき効顯と有するは今更余輩の言を俟たざる所なりと云へども元來女德は敎育と以て命令

すべきものに非らず之を養ふと否とは各自の意思に存す故に女子にして最も肝要なるは自己の行爲と良心に判斷し社會の森羅萬象を是非して惡を排し善を取るの心懸最も肝要なり、而之を爲さんと欲せば宜しく理想を高尚に持せざるべからず理想高尚ならざれば誘惑の爲め貞操を破り婦德を傷け終に魔界に墮落するに到るは最も覩易き理由なり。

雖然此高尚なる理想に對して常に反對を試みつゝあるものは外界の誘惑なり夫の小說本の如き繪畵の如き汚れたる家庭の如き若くは男女の痴狀の如き其最も重なるものにして往々青春妙齡の男女が其身と誤つに到るは實に是等の誘惑あるが爲めなり。觀よ佛蘭西に於ける裸美人畵の如き小說本の如きたとひ淸潔なる思想及び美術の觀念を以て之に望むも其間誘惑となる惡の元素を含有しつゝあるは余輩の確に斷言せる所なり。觀よ「ハーデー」の小說「ゾオラ」の院本「イブセン」の繪畵「ノ

ルマー」の彫刻が如何に彼等の社會に歡迎せられしかを。「ハーデー」は夫の未婚の少女が一度穴隙を鑽りたる後は習慣第二の天性となり結婚の後も淫行止まず終に人殺と行ひ死罪を宣告せらるゝに到る人間惰界の轉變乖戾と穿ち此を名けて高潔なる婦人の話となせり而して或批評家は此の小說の中には高尚なる道德靈能ありと謂へり又た「ゾオラ」が醜窟穢窖の中に身を投じて人間界の秘密を發き之を筆に暴露するを佛國社會は靡然として之を歡迎して曰く人間を有の儘に書き有の儘に觀察して其心情性調に於て穿ち得て迫れりと稱し又た「イブセン」及び「ノルロー」が裸体の繪像を作れば曲線の配合眞に迫りて美術の上乘なりと稱贊し其他是れも美術なり彼れも美想なりと謂て大は申すに及ばず小は煙草のパイプに到るまで裸体を刻插するが如きは又以て其全豹を窺ふに足るべし我國の如きは幸に法律の禁ずる而已ならず是等誘惑

の源となるべき美術少く現に京都博覽會の裸体美人が天下の輿論を惹起して風紀に害ありとし議論紛々たりしは夙に世人の知る所なり且亦小說の如きも一種の人情本を除くの外は大概趣味多き文學上の著述なれば女子感化の点に於て歐洲に比し其難少きは窃に吾人の喜ぶ所なり今歐洲に於ける婦人の理想を示さんが爲め曾て英國有數の女學雜誌「ウーマン」が其紙上に於て「男子の欠点中何物が最も多く婦人の嫌厭と惹起すや」と云へる題にて普く婦人の投票を求めたる其結果を擧げんに一人は男子の意氣地なきこと、一人は男子の怯懦なること、十四人は男子の不信實不節操なることを慨き而して百五十人は風采の欠乏を以て男子の一大欠点とし是ぞ婦人の最も嫌厭を招く者なりとせり

依之觀之れば彼等の好む所は男子の清淨高潔なる雄志に非らず、遠大高妙なる理想に非らず、青雲の志に非らず、雄圖に非らず、宏略に非らず、不撓不屈の精神に非らずして容顏の美麗風采の立派なるにありき、吁彼等の理想推して知るべきにあらずや、顧て我國姉妹の理想を觀るに志にある乎、心にあるか、將た容貌に在るか風采にあるか余輩未だ聞くを得ざれども夫の爲めに紅花となり清泉となり窮苦困厄の中に事業を期せし唐の李衛侯、若くは同氣同情水火の內に入つて相救ひ相助けし宋の韓靳王、或は破窓の下前途大成の爲め經營慘憺たる苦志の境遇にある丈夫に向て同情の涙を灑ぐものある乎、或は孤劍飄然五州の波上に棹す健兒に向て一滴の涙と垂るゝものある乎余輩思ふて茲に到れば多少の疑なき能はず勿論是等を以て罩に高尚なる理想となす能はずと云へども余輩の觀る所を以てすれば人物の如何よりも、寧ろ資產の多少は彼等の心を動し有爲の事業家よりも、寧小學

校の教師に向て同情を表し、志の遠大なるよりも寧容貌の美麗なるに依て同感の情を起す傾わるは余輩の窃に我姉妹の爲めに惜む所なり。嗚呼榮達の人に向つて縁組を希ふものは富貴に心を寄するものにして愛もなけ　ば情もなく夫婦の間は「リッチ」と云へる小さき絲に依て繋がるゝ而已、指彈糸切るれば忽ち反目嫉視の狀を呈せん而已、容貌の美麗なる人に向つて縁組を希ふものは肉体上の快樂を欲するものにして他日色褪め容衰ふれば忽ち野外凋落の人たらんなり、是れ余輩が我姉妹の前途に向つて頗る多端を感ずると同時に未だ其理想が高尚ならんとする所以なり

然りと云へども余輩豈夫れ我姉妹に向つて敢て多きを望むものあらんや、夫のニューヨルク港の水底と潜りて天下の耳目を驚破し更に七十

餘日を以て世界を一周したるニリベリー嬢、若くは自ら狂女となりて瘋癲病院に入り其内情を發きて天下の公義に訴へしノラ、マークス嬢の如き或は軟弱なる婦女子の身を以て無頼悪徒の巣窟に入り内部の悪罪を探りて不朽の名を留めたるバスカル嬢の如き或はケンブリヂ大學に女權を論じて一世を風靡したるウヰリアム、メリー嬢の如き、或は一管の筆を揮て詩界の女王と仰がれたるブローニング嬢の如き、若くは富裕艶麗の思藻を作つて文界に名を馳したるブロントン嬢の如きを以て我姉妹に希ふものに非らず、否余輩は是等の女傑丈夫たらんよりも寧ろ愛情皓潔月の如きシヨセフ非ンたらんとを希ふものなり、伉儷鴛鴦の如く万世閨秀の摸範たる、マリー、アーンたらんとを望む者なり、酸辛痛苦人生の逆境に立つて滿腔の愛情を郎人に濺ぎ能く死生を共にしたるマニタ、クヴユロたらんとを願ふものなり人情を重んじ破

窓の下處天に待して琴瑟の交をしたるフラセーたらんことを希ふものなり、天涯万里滄海に棹し夫の病苦を介抱して傍ら天文學に心を寄せしマリーエンカールたらんことを希ふものなり、嗚呼余輩が是を先にし彼を後にする所以のもの豈夫れ故なからんや觀よ方今我國女學界學者其人に乏しからずと云へども松の如き操、月の如き清らかなる理想を有する淑女果して幾何かある、秋風颯として杜鵑一聲血に泣くの狀を觀て誰亦一滴の俠涙なきものぞ。

聞說江南の橘之を江北に植もれば松となり、英國の薔薇之と東洋に移せば清香を失ふとかや、東西千里情を異にする歐洲の俗を採つて之を我に移す其弊害の起るは寧ろ當然の理由にして何ぞ深く驚くに足らんや、然れども亦觀ずや春は百花爛熳として東風朗かなる春の美あり、夏は綠樹鬱葱として涼風吹き來たる夏の勝あり、秋は皓月高く懸りて

氣清澄なる秋の勝あり、冬は枯木花咲きて天地皓潔なる冬の勝あり、國亦然り佛國には佛國の美あり英國には英國の美あり各國各其國の美あり故に我の短を捨て彼の長を採り守舊に泥まず歐風に流れず所謂中庸を得て女學界の氣風と矯正するは常に當局者の勤むべき所なるべし今や我邦國力の膨脹は女子教育の氣運を促し窓村僻地斯論の得失紛々として女界の前途多少の幸望を來たすとなりぬ、故に余輩がマルセーユの港頭に立て遙に所見を寄せて其反省を求めんとするは最も名譽とする所なり。

夫の男女同權論の如き若くは女子公民權の如き、或は國會議員資格問題の如き之を我國に移して果して良果を得るや否や余輩の敢て知る處に非らず否余輩はサー、ロバート、フヰルマーの流を汲むものに非らずと云へどもアダム、イーヴの地上に來りし中已にアダムは夫として

佛國婦女子の行狀を論じて我姉妹に檄す

ィーヴを制しィーヴは妻としてアダムの命を聽きしものなるを信ずるものなり、故に百年二百年の後はイザ知らず目下の所我姉妹に求むるに男女同權女權の擴張を以てするよりも、寧ろ家庭の嚴肅節操の高からんことを以てするは最も至當の望なりと信ず、然而余輩が冒頭第一世の父兄に向つて望まんとするは干渉結婚の廢止及女子躰育の注意方是れなり。

干渉結婚の弊害は社會の人倫を惑亂し女德の腐敗を來たす所以にして我國今日の大患茲にありと謂はざるべからず又た女子躰育の不注意は兒童の發達を害して國民羸弱の根元亦茲にありと謂はざるべからず觀よ我國は歐洲廿八ヶ國の中離婚の數最も多き瑞典丁抹に比するも尚且つ其數に於て五倍六倍そるに非らずや、近時英國に於ける結婚一萬人に對する離婚の數は平均僅に二十三人佛蘭西に於ては百五十人なるも

我國は實に三千乃至三千五百人の多きを占むるに非らずや嗚呼是れをして帝國の名譽と云ふを得べきや乎吁是をしも大日本帝國の光榮と謂ふを得べき乎。是れ余輩が大聲疾呼我國風紀壞亂の源は男女結婚の間にありと謂ふ所以なり相信じ相知り而して向始を佷儷鴛鴦の如く情愛漆膠の如くなるべし相愛し相親み而して向階老同穴百年の苦樂を共にするに到るべし、然るに我國の如きは父母の干渉に依り兄弟の勸誘に依り見ず知らずの家に嫁を幸にして意氣相投ずれば艮し若し然らずんば忽ち風波起りて家内を浸し終に離婚するの不得已に到る人生の不幸是れより大なるはなし。

抑も女子が高潔無垢の操を捧げて其終生を郎に托する所以のものは是の君ならでは君に對して相濟まずとの觀念あるが爲めなり男子も亦女子の至誠熱情を觀るに及び彼れならでは彼女ならではとの觀念を起し

夫婦合躰相寄り相扶け茲に日出度清健なる家庭に作るに到る然るに人物情性の如何を觀ず僅に血統の清濁を調へ資産あれば馬鹿なるか阿房なるか問ふ所に非らず父母一諾の下に少女と強ゐ行ざらんか不孝の兒と叱られ不貞の子と罵らる已に胸中戀愛の心なくして他に嫁を是れ石而已木而已何ぞ夫に仕へて貞姑に仕へて孝なるを得ん一萬人の結婚者中三千有餘の離婚者を出す寧ろ當然の事而已何ぞ深く驚くを要せんや嗚呼是れ父母の罪なり兄弟の罪なり少女は父母の犧牲となつて結婚の爲め討死するものなり是れをしも憐むと謂はずんば天下何物の憐かあらん故に男女の結婚をして父母の干渉より獨立せしめ自由結婚の制を採るは我國前途の國運に於て最も適當なるを信ず論者或は言はん是れ却て一種の弊害を增加せんと然り豈夫れ然らんや、觀よ德川幕府の破壞は維新の王政と來たし開國の結果は今日の文明を招けるに非らずや

若一利一害を恐れ守舊に泥まば暗燈用ゐべし籠用ゐべし「チョンマゲ」保すべし脇差廢すべからず知らずや「ランプ」來て暗燈廢り人力車興りて籠倒れ斷髮來りて「チョンマゲ」止りしは文明に伴ふ世界の大勢なるを知らずや。果して然らば千渉結婚の如き之を打破するに何かあらん況や有害を去つて無害に就くに於てをや、然れども羅馬は一日にして成るものに非らざるを思へば切に輕擧暴動して折角蓄みし大和撫子の名花を散らさゞらんと余輩の切望に堪へざる所なり。

雄風四海を壓し豪氣一世と呑む今代の日本人も軀幹の矮少なるに至ては洵に歎息の外なきなり余輩は歐洲に來て幾多の巨漢を見たり幾多の御六尺を觀たり。幾多の雲衝く如き男を觀たり否な一般の國民は大概五尺六寸以上ならぬはなし故に日本人にして市中を往來する時は大人の中に小兒の交り居る如き感覺あるは余輩の確に實見せる所なり。畢

竟するに是皆男女躰育の不完全より來りし結果なるは今更余輩の云ふ迄もなく九段坂の遊就舘が最も確かなる證人なるべし

軀幹倭少の原因は獨り其罪を女子而已に歸すべからざるは勿論なりと云へ共、軟質虚弱の母親が擧げし子供は必ず身体強壯なる國民となる能はざるは確なる事實なり。觀よ不出世の英雄ナポレヲンボナパルトが其敵國に攻入んとするや必ず先づ其國婦人の身体を調査したると謂ふに非らずや、蓋父親の不健康なるよりも寧ろ母親の虚弱なるは子供成育迄に於て大に遺傳する所あるは世既に定論あり、左れば婦人の運動を十分にし躰育を盛にして強壯なる女子を養ふは是亦我國現下の急務なりと謂はざるべからず。余輩は歐洲に於て花の如き淑女令嬢が流れも清き小河に「ボート」を漕ぎ或は青草燃えなんとする綠野に「フートレース」「ベースボール」及テニス等と遊び若くは乘馬、自轉車等を

驅りて市中を乘り廻はすを觀たり吾々の目より觀れば聊か異樣の感きにしも非らずと云へども一般に彼等が自体強壯にして擧動の活潑なるは我國姉妹に比して到底今日の論に非らず是れ即他日彼等が人の妻たり母たるの時に於て巨漢と擧げ御六尺と産み雲衢く如き男と得る所以ならん乎。我國の如き夙に女子躰育の行はるゝありと云へども一部狹隘なる學校の天のみ限り其家庭に在て運動を試み躰育に注意するもの少きは決して疑ふべからざる事實なり。

畢竟するに我國俗は女子として野外に出づると許さゞる而已ならず乘馬自轉車の如きは更に謂はず僅に「フートレース」をすら之を爲せば阿轉婆と嘲られ生意氣と笑はるゝより學校に通學する内は兎も角も家に在りては所謂小人閑居して不善をなすと迄には行かざるも多くは裁針仕事、毛絲細工の處が關の山なるべし、況や活潑の遊戲は女子の優美

を損ひ快活の運動は女子の品格と傷むるものとして之を排し之を忌むに於てをや、況や我國女子の理想は霜雪の中に巍然たる松に非らずして寧岸頭風に靡く柳なるに於てをや、嗚呼強壯武勇の國民を養成せんと欲せば壯健快活の女子なかるべからず余輩は我國姉妹に向て巴黎と謂ふものにおらず板額たれと謂ふものに非らず否寧剛に失せず柔に流れず所謂「スパルタ」上流人士の妻たり母たらんを學ばんと是れ余輩が千希万望して止まざる所なり千希万望して止まざる所なり矣。

第四信

地中海感慨

佛國第一の大港馬耳塞を去つて西班牙の海岸に沿ひ地中海の群島を左手に瞥見しつゝ進めば波濤澎湃として万頃一碧際涯なきの所、雲は半嶺に横はつて千峰万岳屹立し暮煙天に霏きて青松白砂斷續の間夜色暗淡として漁火明滅たり、夜は次第に更け行きて波切る船の音最と微かに孤雁一聲朧月を掠むるに驚き思はず起つて首を回せば天地寂寞として四顧悽絶其幽其靜殆んど筆紙の尽す所にあらざるなり、況して海は名にし負ふ地中海の中央一時間十四哩の速力を以て水壁千仞の洋上に棹を仰げば歐洲無數の山河歷々として寸眸に入り俯せば蒼海万里の晴

光燄灑として金龍を遶す其豪興壯快天下何者か之に加かん、誰か謂ふ一板子一枚の下は宛然是れ地獄なりと、然り吾人生を波濤に托するも万里の洋上僅に一枚の板に依て以て死生の境に彷徨するに一見甚だ可憐なるが如しと云へども、抑も席上婦女子の手に死そるを愧ぢ叱咤軍門に立て屍を馬革に裹む是れ元勇士の本懐とする所に非ずや、天涯万里杳渺たる青海原を枕とし舷頭靜に皓月と眺めて眠に就くは由來波上の健兒が本尊なりと知らずや、況して世界を以て家とし海岸と以て壘となす吾人海員に於て暴風怒濤の危險何ぞ恐るゝに足らんや、苟且も偸安陸上に齷齪とし花明柳暗徒に小成に安ずるの徒いかでか這般大海の趣味を解せんや、夫のヘルリックが殘忍暴惡の人民を評して（恰も波涙の如し）と謂ひしが如き、或はウヰルジルが「衝天の濤頂に昇り或は奈落の暗底に沈む」と謂ひしが如きは畢竟汪洋たる大海の和氣靄然

たる其眞相を看破そるの明なきに依る而已、觀よ甲板上は司令長官が墳墓の地なりと云ひしブールスの如き若くは敵彈に中りて甲板上に殪るゝは武人の光榮なりと叫びしチルソンの如き其豪膽偉略は千歳の下りて始て此事業を成就し此略ありて始めて波上の勇者たるを得べき乎抑も海員に尊ぶ所は其行の大膽なるにあり其志の不撓なるにあり、其技能の絶妙なるにあり、出ては大海万里の洋上に泰然として風雲を叱咤し、入りては船舶操縱の器に任し生命財産の安全を擔ふ故に宜しく其宏量は大海の如くなるべし、其胸襟は霽月の如くにして其措置は最も敏活ならざるべからず、是れ即ち渠等が世界万邦に航通して其見聞弘く且つ愛國の赤誠に富み身は常に万丈波瀾の間に出入そるより其心膽斗の如く事に臨で周章狼狽せざる所以なる乎、如斯海員の行意は大

膽豪雄活潑ならざるべからずして就中帝國前途の國運に於て益之を求むるの急且切なるは今更余輩の喋々を竢たざる所なり、然り而して余輩は謂はんと欲す凡ろ海上の事業なるものは世間幾多の事業中最辛最苦の業務たると同時に亦最快最樂の業務たるものなりと、觀よ密雲暗澹として朔風怒濤と捲き四顧悽滄として宇宙咫尺の間に縮少するの時も東も海は濤山千疊の蒼海となり、西も海は濤山千疊の蒼海となり、漂蕩浮沈天涯流落の身となる其時に際りては流石豪邁不屈の海員も胸中の心細さ果して如何計ぞや、或は月暗く風厲く天地暗澹として濁波溷浪舷を叩くの時狂風一陣舵折れ檣碎け空し〳〵死生を万里の洋上に賭せる其時の海士の心中果して如何或は炎威赫々として身を焦その熱帯地方となり、或は寒威料峭として肌と劈くの北洋寒帯となり、或は悪疫瘴癘肝腦を冐す境蠻邊土の航海の如き茲處海士が最も苦胸錬膽の處なるべし去れど又た大空一碧拭ふが如く和風徐に戰ひて海面鏡の如き時万頃の波濤漂渺として雲耶山耶漁帆風を孕で鷗鳧翔る所澄日已に沒して一輪の海月高く滄溟を破るが如き、或は晴朗の暗夜幾万の群星か水に碎けて燦爛たる光を波上に映ずるの時其下には幾千万の魚介燐光を放て更に其光輝を爭ふが如き、或は孤厂月明を遮て万籟蕭條の夕近く胡笳の聲を船窓に聞くが如き、或は月なきに何ぞ光の白色弓象の南極に閃電するが如き、或は燈なきに何の火ぞ空中遙に不知火を望むか如き、扨ては歷氣樓と云ひ、珊瑚嶋と謂ひ其他眼中に映ずる千態万狀の現象に到ては到底世人の解得る能はざる所なると共に吾人海員が獨り其娯を占有する所なり、況や今月今日は万里を隔て檣頭高く日章旗を飜へし笛聲亮々歐洲の港に濤と蹴上ぐるが如き其豪興壯觀果して幾何ぞや、是れ余輩が日本の一國民として將又た一介の書生として其狀況偉觀を略叙せんと欲を而して

之を筆する能はざる所以なり、嗚呼今や地中海上月は高く濤は清し舷
底遙に想を故山に馳すれば關山萬里の憤自ら動きて禁ずる能はず雲烟
渺乎として水天杳茫の邊孕門浦港の全景恍惚として夢魂に入るの時知
らず故鄕の知己諸君今將た如何。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

サー、ウヲルター、ラレー謂はずや「太洋と指揮するものは貿易と指
揮し、世界の貿易を指揮する者は世界の富を指揮するものなり」と眞
に千古の知言と謂ふべし、移して以て帝國刻下の實勢に適切するを知
らば誰か海運事業の伸張を以て不急の問題なりと謂ふものぞ、語を寄
す、山高く波荒き南海の壯夫氣豪に行堅き土陽の青年よ、子等は一國
の花なり元氣なり蕾なり生命なり帝國海運の花未だ其蕾を開かざる今

日に當り全幅の精神を注で斯業の勃興に熱注するは蓋し國家百年の大
經綸よりするも自家一身の所世策よりするも一擧両得萬全策たるは余
輩の堅く信じて疑はざる處なり吁一國の花たり蕾たり、元氣たる諸子
にして勇往猛進奮躍一番すれば斯業の隆盛期して待つべく帝國前途の
進運焉ぞ憂ふに足らんや、余輩妄に政論以外に立て帝國海運の擴張を
望み併せて縣下に於ける海事的思想の煥發を期し不文を顧みず先に卑
見を寄せて二度三度び其反省を求めたりき今や千篇一律之を操代する
の必要を觀ずと云へども余は更に諸子に勸むるに「陸に在りて貧しか
らんより海に在りて富め」てう獨逸の俚諺を以てせん、知らずや孤帆
千里大海に棹し鉄輪縱横富を世界に求るは明治初年煥發の聖旨なりと
知らずや嗚呼百尺竿頭一歩を進めて弘く世界の舞臺に立ちし帝國今日
の國勢一歩を海外に陷み出さんと欲すれば必ず海洋を渡らざるべから

ず一事を成んと欲すれば必ず大海の波を凌がざる可らず四面環海の一島國他日社會の一大勢力となり未來永久の國是として之が一大利用となるべき者海運事業を措て將た那にか之を求めん記憶せよ亞洲大陸の極東に位せる彈丸黑子の一孤島、帝國日本は四瀛の交通總て是れ海運の力に依らさるべからざると記憶せよ

嗚呼筑前太宰府社頭の月明に今歲の今夜清涼に侍せしを思ひ恩賜の御衣に暗涙を灑しは君と思ふ菅公の精忠に非らずや萬里の洋上水大髣髴の間遠く舷頭に立て顧望低徊胸中千万無量の感慨に沈むは是れぞ土陽の寒生坂本喜久吉が故郷を愛する一片赤誠の致す所と知るや知らずや

船は順風に駕して四大檣の帆と展開し一瞬千里の速力を以て疾航する事矢の如し。亞非利加の海岸を左舷に望み西班牙の東南岸「ド、パロース」岬より針路を西南微東に轉じ「ド、ガター」岬を迎へて更に針路を極

西に轉ずれば地中海の波濤は皓々として山高水碧西葡併せ得たり歐洲南岸の景眞に其崇高壯麗の狀は天涯羈旅の客をして轉た其孤心を慰せしむるに足るものあり屈指それば佛蘭西を去て茲に四日明治廿九年十一月十九日曉霧朦朧として輝旭未だ東角に昇らざるの時凡そ三十哩を隔て右舷近く白雲の棚曳く所巨巖斷崖屹然として海中に突出そるは是れぞ即世界に有名なる「ヂブラルタル」の要塞とは知られたり

ヂブラルタル之景

「ヂブラルタル」は西班牙の極南端に位置する四面險崖の要塞として

海面を拔くこと實に一千四百三十九呎其南は地中海に臨みて自ら嘴岬をなし亞非利加の北岸「モロッコ」と相對す其背は一葦の地峽に依て「アルダルシヤ」に連接し長二哩四分の三哩、幅四分の三哩面積方二哩人口二万六千八十内戍兵五千六百六十四人を有する一小英領に過ぎざるなり、然れども天然の地形地中海の咽喉を擁して一夫之を守れば万卒通じ難く一艦之を扼せば万艦難航の天險なるより夙に天下三大要害の一として其名最も著しきは普く世人の知る所なり殊に英國政府が畢生の力を奮て堅牢無比城寨を築きしより更に地中海の鎖鑰として一層世人の重要視するに到れり市街は入江に沿ふて西岸に傾斜し澄碧一望甚だ壯觀を極む茲所より凡ろ五哩半にして西班牙の小府「アルゼシラス」に達そべし

聞說此地の英領となりしは今を去る事一百九十二年の昔にて當時英國

は曾て嗹馬王ゼヲルジの妃たりしアーンの御代にして未だ王朝の基礎强固ならず隨つて遠く手を海外に延ばして地中海の航權を握るが如きは殆んど意想外の事なりき、觀よ夫の格朗空が一度起つて革命の軍を興すや反旗四方に飜りて天下風靡しチヤールス第一世の首は早く飛んで路頭一滴の露と消へ失せ世は暫く共和の雲朗かなりしも一起一仆は乱世の常次でチヤールス第二世の登祚するや庶民皆万歲を唱へしも是亦南柯一睡の夢、惡虐暴行日に相繼ぎ宮庭德操收らずして治績最も汚辱を極む是れよりジエムス第二世及ウヰリアムを經て前妃女王アーンの踐祚となれり、斯かる有樣なりし故英國は外患內憂交々到り進取的國是に依て以て雄を海外に樹つるが如き、例へ先王の遺圖なりしとは云へ到底國勢の許す能はざりし處なりしも當時歐洲は恰も戰國の時代とも云ふべき有樣にて殆んど寧日なく日、蘭の両國相結んで西、佛の

二邦と相戰ひ歐洲の中原は風雲暗憺として万馬騰蹴し一大修羅の巷と化せり、這時英國は日、蘭の同盟軍に左袒し陸に才略智謀一世と傾けたる王の寵臣マルボローを送りて三軍を督せしめ海には武勇絕倫の傑ルークを派して專ら両國の艦隊を攻撃なさしめぬ而して海陸両雄の智謀籌略は能く英國の國旗として九鼎大呂の重をなし赫々たる名譽は國の中外に輝きて一躍其覇權を制するに到れり、而して時は是れ西曆一千七百九年七月廿二日曉霧朦朧として逆風漸瀝たり怒濤洶々として狂瀾天を衝くの時地中海上遙かに幾多の艦隊の舳艫相啣て西班牙の南岸へと推し寄せ來るは是れ夫のルークが日國のチヤールスを葡萄牙に護送し其任務を終へて本國に皈港の途すがら偶警兵の少きに乘じ不意に「ヂブラルタル」に逆襲するとは知られたり、砲烟漠々彈丸怒濤と排そるの處渠は此天下無二の要害と聞へたる「ヂブラルタル」に肉薄し

何の苦もなく咄嗟の間に之を陷落したりと見へユニオンヂヤックの國旗は飜々として巖上に飄へり西、佛の両軍死力を盡して奮擊突戰之を環攻せしも終に回復そると能はず爾來今日に到る迄永く英の所領と殘りける是れ即ち「ヂブラルタル」に關そる沿革の一班なり。

嗚呼英國が今日地中海の覇權を握り其鋭鋒毅然として當るべからざる所以のものは實に其咽喉を扼する「ヂブラルタル」の堅壘あるが爲なり若し此堅城にして依然西班牙若くは佛蘭西の有たらしめんには例へ「マルタ」に雄鎭を置くも渠は終に地中の龍たらん而已、到底蹼足を伸ばして波上の泰斗となる能はざるや明けん、由來地理上の形勢が一國の興廢と左右するを知らば誰か「ヂブラルタル」の堅壘が地中海無二の雄鎭として將又た海上覇權の集注点として未來永遠英人の守本尊たると疑ふものぞ、今假に浦戸港内を以て地中海に譬ふべくんば御疊瀨及

ヂブラルタルの景

亞古目は宛然たる亞非利加の北岸「モロッコ」にして猿島は實に「ヂブラルタル」の要塞たればなり、茲處に堅城を築き保砦を設け豪然として其狹路を扼し見上ぐれば幾多の鉄柵巨砲は丘上に連りて恰も蜂巢の如く千伊の巨巖地中海を俯觀して姿勢の雄偉なる眞に絶世の要害と謂ふべし、若夫れ一艦前を過さらん乎霹靂一聲彈丸爆落して咄嗟の間之を微塵に粉砕せんは眞に是れ容易の業たる而已、余輩先に渤海灣に在りて旅順の堅壘を目撃せしが其規模の宏大構造の雄偉なるに於ては或は一歩を之に譲らん、然れども其位地其要害なるに於ては寧之を凌ぐものあり、況や當時海軍の精錬せると天下敵なく一擧世界の航權と掌握して威勢堂々万邦に冠たる英國の所領に屬そ其世界三大要險の一として名實相完きは蓋し旅順に比し殆んと同日の論にあらざるなり、

北日本船の海峽を通過せんとするや一時機關の運轉と緩め信號旗を以

て船名を報告す、蓋し此處通航の船舶は何國何船たるを問はず必ず船名を報告せざるべからざる成規なり、丘端に一個の燈臺ありて地中海航通の滊船に至大の便利を與ふ、此地元と自由貿易港なれども居民の少きと土地の狹隘なることにより其貿易の如き敢て觀るに足るべき程のものなし、只だ亞非利加の北部及英領内地の貿易上其貨倉として最も大切なると同時に石炭貯藏所として最上の位置を占む最近の調査に依れば歳入六三、二一六磅歳出六〇、六五五磅輸入五二、三二四磅輸出四三、一一二磅なり以て其一班を知るに足るべし。

ヂブラルタル之景

●トラファルガル岬を望て稀世の海傑「ネルソン」を憶ふ

抑も「トラファルガル」岬は十九世紀の海戰史上歐洲三大國の古戰場として將た古今獨歩の一大海傑英國海軍大將子爵司令長官「ネルソン」が戰沒の地として偉跡赫々たるは三尺の兒童と雖も尚ほ能く知る所なり蓋此海戰たる獨り英國の危急存亡に關する而已ならず實に全歐安危の破る所にして夫の不世出の英雄「ナポレヲン」が西、佛聯合艦隊三十三隻と以て英の艦隊二十七隻と地中海の狂瀾怒濤を掀翻して一舉兩國の運命を賭したる空前絶後の一大激戰なり當時奈翁の勢力は歐洲を席捲し威權赫々として旭日の如く百戰百勝破竹の勢を以て傲然各國の帝王と頤使し銕蹄縱橫一躍して更に世界の君王たらんとす故に若し英國に

して不幸「トラファルガル」に破らん乎國辱千秋邦を擧て渠の脚下に膝まづき其今日ある到底待て望むべからざれは勿論歐洲全体の安危と云へども未だ容易に測り知るべからざるものあり、觀上「アルプス」の山巓に疾風一陣する所澳伊の原野靡然として動き鉄騎騰蹴する所亞弗利加の大陸を席捲し電光一閃更に英吉利海峽を渡らんとせし不世出の豪傑彼「ボナパルト」は茲に強大なる聯合艦隊を組織して一擧雌雄を海上に決せんと試みたりき吁英の國勢炭々乎として夫れ危哉然りと云へども由來海軍の至精至錬なるとは英人獨得の長技區々たる一國の海軍を以て尚ほ且つ五洲の陸軍に當るべしとは曾て「チルソン」が揚言せる所なりき況て今や司令長官には智謀雄略万世の師範たる渠あり依て以て歐洲の平和を維持せべく因て以て其國勢を既倒に救うを得べき乎果然戰は開かれたり幾多の艨艟巨艦が怒濤を排して縱橫に驅馳せる所砲烟

トラファルガル岬を望て稀世の海傑ネルソンを憶ふ　二百二十七

濛々として海上に鎖し彈丸雨の如く飛下して火焰炎々天を焦す所蒼穹爲に紅に變ず其慷慨寅に古今の壯觀と極む斯る內にも流石は蒙塵不屈の海傑「チルソン」第十七隻の艦隊を手足の如く操縱し一擊敵艦を粉碎して支離裂滅地中海上亦其隻帆隻影だも留めず凱歌四方に囂きて天晴れ身は回天の偉勳絕代の榮譽と擔ひしも飛丸一發左肩に命中し憐れ旗艦「ヴヰクトリヤ」の甲板を枕に行年四十七歲を期として果敢なくも其人に乏しからず然れども渺乎たる一水夫より蹴起して身は海軍大將底の藻屑と消へ行きしは洵に憐の次第とや謂はむ

の顯職に昇り神機妙算風雲を叱咤し入つては國家の重望に任じ出ては鳴呼武勇絕倫稀世の膽略絕代の經綸と抱て大功偉勳を樹てしもの世間邦家百年の基礎を畫す其功業赫々として死して尙は活けるもの余獨り「チルソン」將軍に於て之を觀る、吁渠は實に項天立地の一大海傑なり

古今絕無の一大海將なり夫の「ブレヤー」氏の謂ひし如く「英國が世界の海上權に於て成功せしは渠が三時間の奮鬪に依て以て奈翁六年の苦心になりし艨艟巨艦と粉碎したる其瞬間にありと」實にや渠は一死以て歐洲の平和を維ぎ屍骨以て英の獨立と相保せり至誠國に許その丈夫獻身海に殉するの海傑ならざれば安ぞ能く如斯なるを得んや、英國が「チルソン」に負ふ所亦大なりと謂ふべし。

勿論佛國末路の非運は「ウェルリントン」の力にして奈翁「セントヘレナ」の遠謫は實に「ウオトルロー」の結果なりと、抑英國の今日あるを得たる所以のものは陸に渠を挫きし「ウ」氏の功よりも寧ろ海に渠を破りし「チルソン」其人の力を多とせざるべからず、觀ずや英吉利海峽を封鎖して咄嗟の間に幾十万の陸軍と英國に上陸せしめんとしたるは當時奈翁の苦心になりし慘憺たる神略なりしを、故に若此海戰にして一

朝「チルソン」の敗劒に了へしめん乎英國は旬日を出でずして忽ち滅亡せし而已何ぞ夫れ「ウオトルロー」の役を待んや何ぞ夫れ「ウェルリントン」の功を觀るに及んや、英鋒毅然として「アッタ」河畔に「能はず」とや、加斯きは佛國人民の語に非らず」てう叱聲を洩らせし渠「ボナパルト」は早くも其抱負を實にして世界に君臨したるや明けし。然るに「トラファルガル」の海戰一擧して西、佛海軍の頭腦を碎破し爾來一歩を海上に蹈出す能はざらしめたるものは一に「チルソン」其人が籌謀設略の致す所に非らずして何ぞや果して然らば英國今日の國運と礎せしものは實に「チルソン」の力なり、「チルソン」の功なり「ネルソン」の賜なり英國をして今日世界海上權の覇島たらしめしものは實に「ネルソン」の勳なり「トラファルガル」海戰の結果なりと謂はざるべからず

歐洲再航錄 終

明治三十一年七月二十日印刷
全　年八月十日發行
（歐洲再航錄）
（正價金廿五錢）

著作者　阪本喜久吉　在神奈川丸
發行兼印刷者　東京市芝區宇田川町十六番地　山本清七

版權所有

發賣元
東京市神田區表神保町三番地
東京堂書店
東京市淺草區柳町一番地
高岡成舍
知東京支店

發賣元

高知市種崎町
仝本町下一丁角
仝本町三丁目
東京神田區裏神保町
大阪南久太郎町
仝備後町四丁目
仝　仝
仝　鹽町心齋橋通り
仝　安土町四丁目
仝　心齋橋北詰、
仝　順慶町
神戸市榮町
仝　元町

開成舍本店
仝第一支店
仝第二支店
上田屋書店
武田交盛館
吉岡平助
盛文館
岡本書店
積善館本店
中村芳松
矢島誠進堂
船井新聞店
吉岡平助支店

特約大賣捌

大阪　梅原龜七
仝　柳原喜兵衛
京都　東枝律書房
仝　河合文港堂
仝　飯田信文堂
熊本　長崎次郎
鹿兒嶋　吉岡幸兵衛
長崎　安中半三郎
久留米　菊竹書店
博多　積善館支店
大阪　中村庄兵衛
仝　濱本明昇堂
廣嶋　積善館支店

名古屋　川瀬代助
長野　西澤喜太郎
松本　水琴堂
盛岡　鶴鳴門
高知　澤本駒吉
仝　山中專助
仝　小川代次
仝　村岡榮助
仝中村　岡田桝次郎
仝赤岡　田内運平

| 東京 | 同 | 同 | 同

開成舍發行書目

阪本喜久吉君著
日本叢書第壹編
雲海紀行
一名土佐丸歐洲航行記
袖珍 正價金拾五錢 全一冊 郵送稅四錢

宇田滄溟君著
日本叢書第貳編
壟上偶語
神奈川丸事務長阪本喜久吉君著
日本叢書第參編
歐洲再航錄
神奈川丸歐洲航行記
中形 正價金拾五錢 全一冊 郵稅四錢
袖珍 正價金貳拾五錢 全一冊 郵稅四錢

松野翠軒翁著
南海之偉業
菊判形 正價金貳拾五錢 全一冊 郵稅四錢

農學士農藝化學士 一名野中兼山一世記 澤野淳君著
農業講話
中形 正價金拾貳錢 全一冊 郵稅貳錢

河田小龍翁著書

土佐十景 吸江圖志 木版和綴 正價金拾貳錢 郵稅貳錢

高知縣管內地圖 正價金參錢五厘 郵稅貳錢

高知市街圖 正價金五錢 郵稅貳錢

土陽叢書第一編 土藩大定目 洋綴全一冊 正價金拾貳錢 郵稅貳錢

土陽叢書第二編 山內武功 洋綴全一冊 正價金拾貳錢 郵稅貳錢

寺石正路君著 土陽叢書第三編 土佐遺聞錄 上卷 正價金拾貳錢 郵稅貳錢

仝君著 土陽叢書第四編 土佐遺聞錄 下卷 正價金拾貳錢 郵稅四錢

福嶋鷗波子著 土陽叢書第五編 紀貫之 洋綴全一冊 正價拾貳錢 郵稅貳錢

寺石正路君著 土陽叢書第六編 土佐人物傳 上卷 正價金拾貳錢 郵稅貳錢

寺石正路君著 土陽叢書第七編 土佐古跡巡遊錄 上卷 正價金拾八錢 郵稅貳錢

青木義正君著 土陽叢書第八編 長曾我部元親 洋綴全一冊 正價金拾八錢 郵稅貳錢

寺石正路君著 土陽叢書臨時增刊 食人風俗考 洋綴全一冊 正價金參拾錢 郵稅貳錢

出版豫告

寺石正路君著
●土佐古跡巡遊錄　下卷　近刊

仝君著
●土佐人物傳　中下　同

武市佐市郎君著
●土佐近世商業史　同

松野尾翠軒翁
●白灣往來　同

仝翁著
●高知市沿革史　同

寺石正路君著
●土佐四大地震記　同

佐々木甲象君
●泉州堺烈擧實記　近刊

土佐昔噺　逐次發行す

●土佐昔噺　まねし爺　近刊

●土佐昔噺　新兵衛　同

●土佐昔噺　いしきり　同

●土佐昔噺　水之助　同

●吾妻俠客　腕(あひな)の石碑(いしぶみ)　井上笠園著

諸新聞雜誌迅速取次

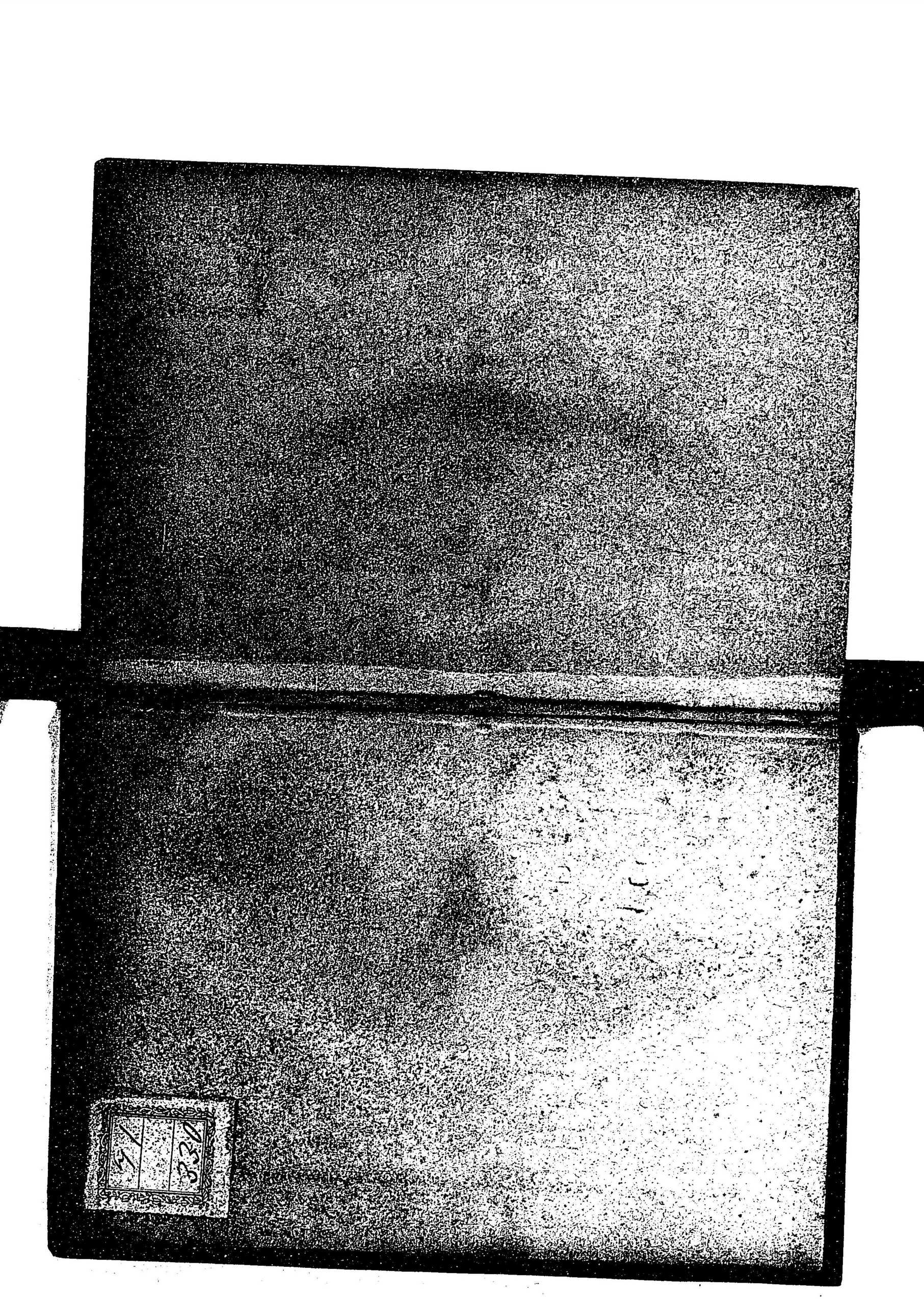
博文館發行の六大雜誌を始めとして京阪の諸新聞雜誌は凡て郵便にて迅速取次す請ふ諸君御下命あれ市中配達の迅速なると價の廉なるは弊舍の特色なればなり

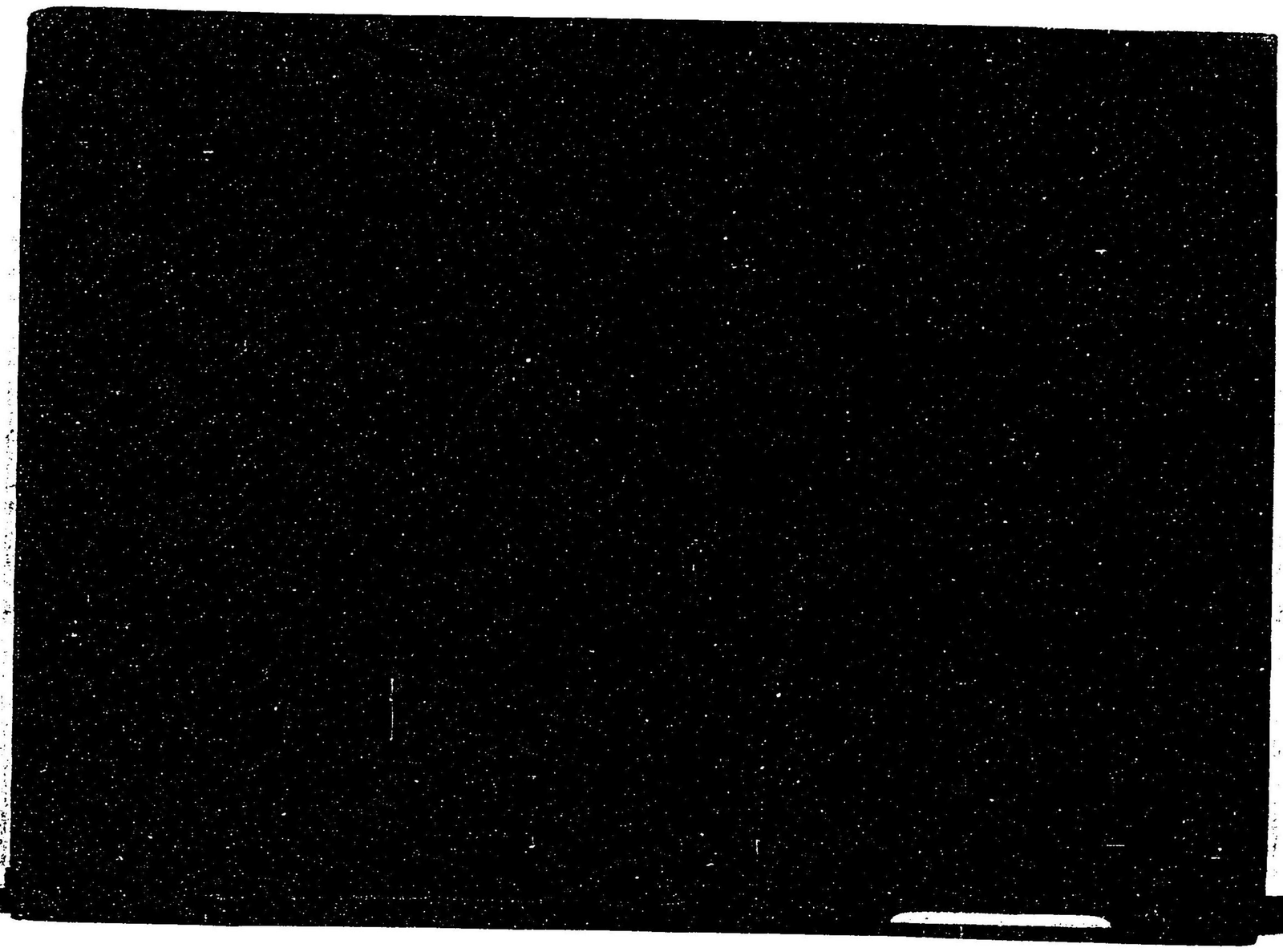
書肆

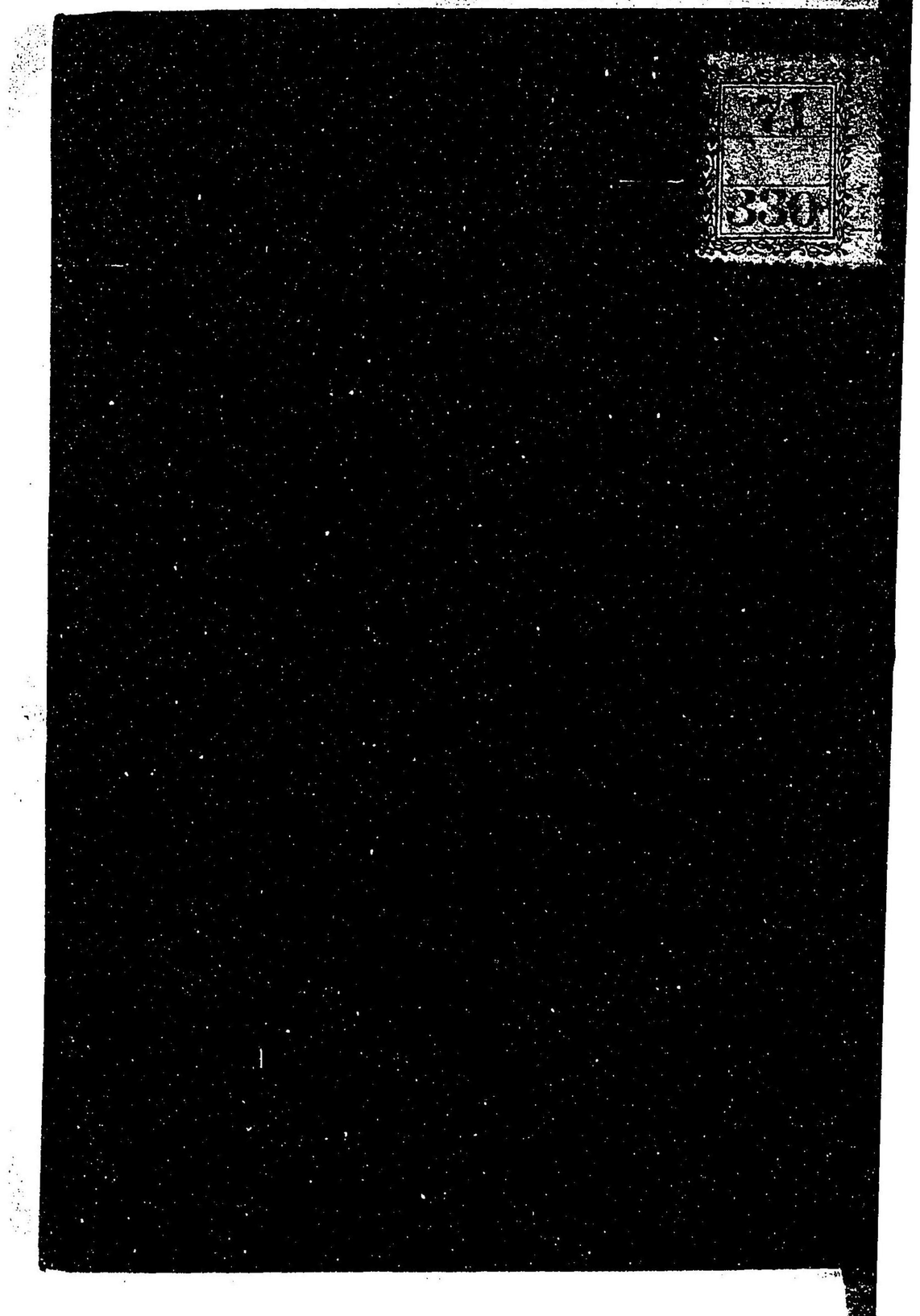
高知市種崎町九十八番地

開成舍本店

新聞雜誌部





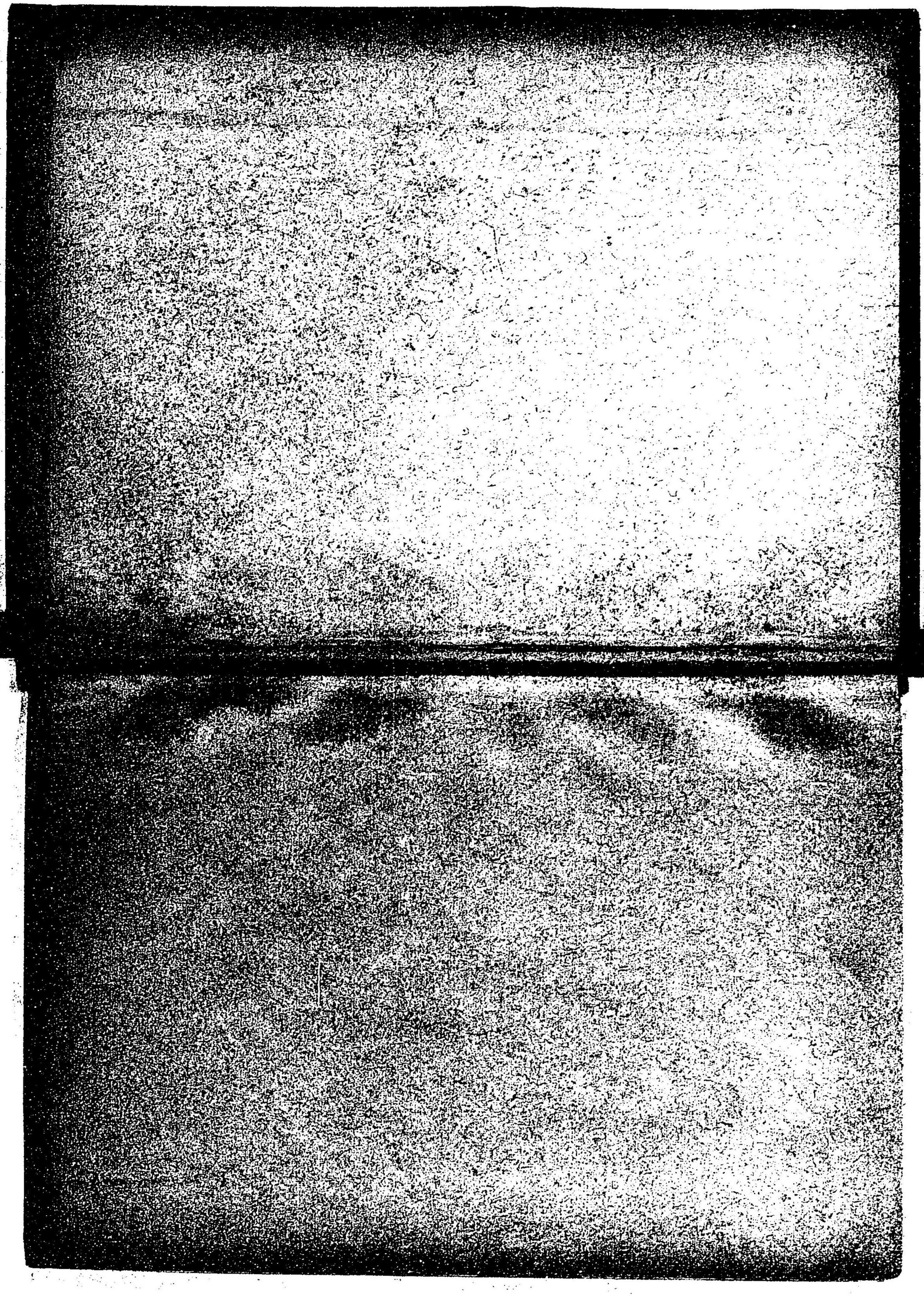


026831-000-0

71-330

欧洲再航録

坂本　喜久吉／著

M31

ADF-0010